

エコアクション21

環境経営レポート



対象期間 2020. 6. 1～2021. 5. 31

発行日 2021年9月27日

目 次

岩手環境事業センター環境経営方針	1
事業活動の概要	2
岩手環境事業センターの環境活動体制	3
2020年度環境目標と実績【環境事業センター部】・【濱田製作所事業部】	4
環境活動計画の取組・結果の評価	5
環境目標設定【2021年～2023年】	6
収集運搬運行計画表 ・ 廃棄物受託量	7
搬入される廃棄物の処理工程図	8
緊急事態の想定結果及びその対応策	9
教育・訓練【社内訓練】	10
環境活動 地域への取組【外部講師を迎えての講習会】	11
環境活動 地域とのコミュニケーション（取組）【ごみ拾い】	12
環境活動 地域とのコミュニケーション【りんごまつり手伝い】	13
法令の遵守 ・ 外部からの苦情受付	14
代表者による全体の取組状況の評価及び改善に向けて	15
組織の概要	16

《企業理念》

株式会社岩手環境事業センターは、廃棄物の処理業、機械製造業、サービス業を通じて、その事業活動が地球環境に無くてはならない事業である事を認識し、循環型社会の実現のためゼロエミッションや資源のリサイクルの技術向上に努め、循環型社会の形成に貢献する企業になることを目指すとともに環境経営の継続的改善に努めます。

《事業活動》

- 1 収集・運搬車両の運行計画を立て、エコドライブを実践し、省エネと排ガスの抑制に取り組みます。
- 2 受託した産業廃棄物の再資源化に取り組み、エネルギー消費量削減に努めます。
- 3 節水を心掛け、資源のムダを省きます。
- 4 作業の安全に十分に心掛け、火気（電気火災・建物火災）に細心の注意を払い、環境汚染を防止します。
- 5 常にお客様からの製品満足度を確認し、技術の向上を考え安定した製品を提供します。
- 6 当社の事業活動に関連する法規制は確実に遵守することを誓約いたします。
- 7 地域及び住民の方々とのコミュニケーションを図ります。

平成26年 6月 1日 制定
令和 2年10月 1日 改定（第3版）
令和 2年12月 1日 改定（第4版）

株式会社 岩手環境事業センター
代表取締役社長 濱田 博

事業活動の概要

① 事業者名及び代表者名

株式会社 岩手環境事業センター
代表取締役社長 濱田 博

② 所在地

本社・工場 岩手県北上市二子町上野 1 1 2 番地 1
処理工場 岩手県北上市黒岩 4 地割 7 5 - 3 5

③ 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者：部長 花立 好一
担当者：同上
連絡先：電話 0197-66-3171 FAX0197-66-5192

④ 事業内容・許可の内容

- ・ 基準適合産業廃棄物処理業者（認定岩手 2012-042 号）収集運搬★★★★中間処理★★★★
- ・ 産業廃棄物収集運搬業
- ・ 産業廃棄物処分業
- ・ 一般廃棄物収集運搬業
- ・ 一般廃棄物処分業
- ・ 一般廃棄物施設設置許可
- ・ 食品循環資源再生利用登録
- ・ 各種設備機器の清掃・保守・管理
- ・ 機械製造販売
- ・ 岩手県再生資源利用認定製品認定
- ・ 肥料登録（生第 80304 号）汚泥発酵肥料 みのりのパートナー
- ・ 農業用資材の販売

⑤ 事業の規模

活動規模	単位	29年度(29.6~30.5)	30年度(30.6~R1.5)	R1年度(R1.6~R2.5)	R2年度(R2.6~R3.5)
処理量	t	11,114	11,025	11,635	11,440
売上高	千円	425,168	439,374	348,565	365,066
従業員	人	18	18	20	22
敷地面積	m ²	17,820	17,820	17,820	17,820

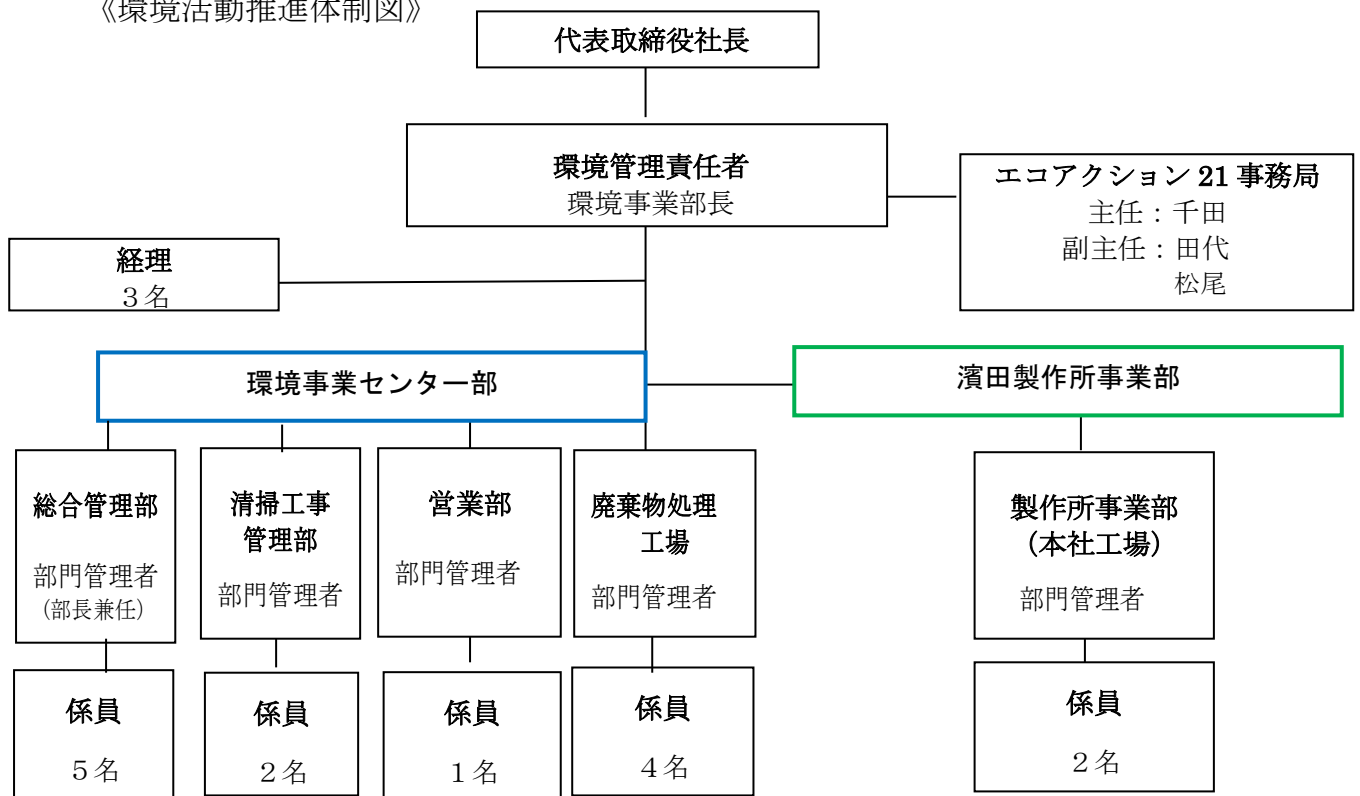
一般貨物自動車	台	9	9	9	11
フォークリフト	台	4	4	4	4
ホイールローダー	台	5	6	6	6

⑥ 認証登録範囲

全サイト・全組織・全事業活動

岩手環境事業センターの環境活動体制

《環境活動推進体制図》



《役割と責任・権限》

役割	責任・権限
代表者	環境基本方針(理念・行動指針)を決め、全社員に理解と実現を通達する。 有効な実施体制を構築する。 経営における課題とチャンスの整理と明確化。 環境基本方針を実行しているかいないかを各部門長を通じて管理し、最終決断を通達する。全体の評価をして見直しを実施する。
環境管理責任者	代表者と各部門長・主任との報告を取り合い、風通しの良い職場作りを実行する。代表者に代わって日々職場業務を管理し、環境基本方針を実行させ、結果を報告する。
EA21 事務局	環境管理責任者の補佐役として活動する。 また事務管理を実施し、環境管理責任者のサポートも行う。環境関連法、クレーム対応も管理する。
廃棄物処理工場	工場内業務及び収集運搬業務及び設備・重機の運用の実施。環境基本方針を毎日確認し、業務を遂行する。 業務終了後は指定の報告書にて事務局へ報告する。
部門責任者	環境基本方針を毎日確認し、業務を遂行する。 業務終了後は指定の報告書にて環境管理責任者へ報告する。
係員	環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

2020年度環境目標と実績【環境事業センター部】・【濱田製作所事業部】

2020年度（2020.6.1～2021.5.31）

環境事業センター部	項目	2020年度目標	2020年度実績	達成率	評価
	二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)	264,130.54	314,911.11	83.87(%)	×
電力使用量 (kwh)	239,843.17	265,796.00	90.24(%)	△	
灯油使用量 (L)	34,309.68	48,076.20	71.37(%)	×	
軽油使用量 (L)	18,134.67	18,019.25	100.64(%)	○	
ガソリン使用量 (L)	2,620,22	4,410.34	59.41(%)	×	
クレーム有無	クレームゼロを目指し、表による管理。	クレームなし	100(%)	○	
地域とのコミュニケーション	地域行事への協力、参加。清掃作業による地域貢献。	地域のリンゴ祭り手伝い、道路ごみ拾い	—	○	
受託した廃棄物の再資源化(達成率) (%)	100	100	100(%)	○	

濱田製作所事業部	項目	2020年度目標	2020年度実績	達成率	評価
	二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)	36,379.95	35,755.43	101.75(%)	○
電力使用量 (kwh)	21,187.98	24,164.00	87.68(%)	×	
灯油使用量 (L)	1,505.13	1,473.00	101.98(%)	○	
軽油使用量 (L)	5,578.82	4,477.73	124.59(%)	○	
ガソリン使用量 (L)	2,993.38	3,424.86	87.35(%)	×	
クレーム有無	クレームゼロを目指し、表による管理。	クレームなし	100(%)	○	

※電力の二酸化炭素排出係数は、東北電力の実排出係数 0.521 kg-CO₂/kwh です。

○燃料・電力等の使用物品の内訳○

センター部	灯油使用品	温熱ヒーター2台・乾燥装置(ロータリーキルン)1台・冬期使用の暖房ヒーター1台
	軽油使用品	一般貨物車両5台・フォークリフト1台・ホイールローダー5台
	電力使用	攪拌機械装置9台・送風機16台・温熱ヒーター2台・乾燥装置1台 袋詰機械装置1台・計量機械装置1台・電気式フォークリフト2台・工場内照明機具・事務所(照明器具・冷暖房機)
	ガソリン使用品	営業車両・清掃部元請先への通勤車両、草刈機械混合油原料

製作所事業部	灯油使用品	工場内ヒーター1台・ジェットヒーター1台・
	軽油使用品	1.2t車1台・4t車1台・ウェルダー2台・ フォークリフト1台・ホイールローダー1台
	電力使用	工場内水銀灯10ヶ・投光器2台・天井クレーン2台・交流アーク溶接機4台 工作機械(旋盤・ボール盤他)9台・電動工具(ディスクグラインダー5台・ドリル4台・インパクト3台丸のこ4台)倉庫内照明 事務所内照明・事務所エアコン7台・パソコン9台、コピー機1台・プリンター1台・電話器
	ガソリン使用品	代表営業車・草刈機械混合油原料

環境活動計画の取組・結果の評価

番号	項目	取組内容	結果の評価
1	電力(kwh)	<ul style="list-style-type: none"> ・処理場の送風機はタイマーを使用し無駄な運転を省く。 ・本社工場内の機械・工具は使用時のみ電源を入れる。 ・昼休み時の消灯を徹底する。 ・不要な電灯は消す。 ・エアコンを28℃に設定する。(夏季) 	<ul style="list-style-type: none"> ○廃棄物搬入量の増加による電気使用量は、一概にも比例することではなく、搬入量が多い月でも電気の消費量は軽減できている。(冬期期間は短期に搬入時であれば電力使用は増加傾向) ○前年度同様、肥料出荷に4t・10tダンプを使用した期間は攪拌機械の使用時間が増加する。肥料の計画生産は、同時に関連設備の稼働が増えることにより、使用量も増加傾向となった。 ○休憩室などでの電気製品の使用は、節電を意識しているので次年度も継続させる。(昼食時や使用していない室内は、照明を必ず消す)
2	灯油(L)	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒーターを使用の際はつけっ放しなど無駄のないように心掛ける。 ・処理物に対して使用するロータリーキルンは、季節により火口のノズルを変えることにより灯油の使用量を軽減できるため気をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○肥料生産は、出荷予定数量を確認しながら計画的に安定した生産をしたが、出荷ピーク時は灯油使用は増加している。2月～5月は処理過程での効率を見直して、発酵槽での発酵・乾燥が良くなり、一日当たりの製品生産量が増加した。
3	軽油(L)	<ul style="list-style-type: none"> ・アイドリングをしていないか。 ・エコドライブを徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○軽油使用量は、前年度と変わらずであり、無駄のなく、効率のよいで使用量であったと考えられる。 ○使用量の多い月は営業部より4t・10tダンプでの配達や機械メンテナンス出張で使用があった月であるが、お客様のニーズに合わせた使用であるので、無駄のない走行計画を立てることを心掛けた。 ○電気式フォークリフトを導入し、軽油給油の手間や効率を軽減した。
4	ガソリン(L)	<ul style="list-style-type: none"> ・アイドリングをしていないか。 ・エコドライブを徹底する。 ・草刈機械で使用の際は燃料を無駄にしない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ガソリン使用量は増加している。特に水田、麦ほ場の草刈作業(請負作業)の増加し、人員及び車両の使用も増えているためである。朝礼で走行計画や作業計画を報告し合い、無駄のない車両走行や燃料使用を徹底している。
5	クレーム有無	<ul style="list-style-type: none"> ・お客様からのクレームゼロを目指した作業と行動を心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○クレーム・苦情はありませんでした。
6	地域とのコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献作業(ごみ拾い) ・地域の活動に協力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ごみ拾い・ガードレール洗浄・側溝掃除を実施した。 ○地域のリンゴ祭り・収穫祭への手伝い(社員4名)
7	受託した廃棄物の再資源化	<ul style="list-style-type: none"> ・受託した廃棄物は100%再資源化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○廃棄物は100%再資源化しています。

環境目標設定【2021年～2023年】

2021年度から2023年度の電力・灯油・軽油使用量は、各年度とも前年度実績の1%の削減目標とする。

大指標	環境目標項目	責任部門	2020年度実績	2021年度削減率	2022年度削減率	2023年度削減率
				目標値/単位	目標値/単位	目標値/単位
二酸化炭素排出量	電力使用量の削減	環境事業センター部	265,796 (kwh)	2020年度から1%削減	2021年度実績から1%削減	2022年度実績から1%削減
				263,138.04 (kwh)		
	灯油使用量の削減	環境事業センター部	48,076.2 (L)	47,595.39 (L)	2021年度実績から1%削減	2022年度実績から1%削減
				17,839.06 (L)		
軽油使用量の削減	環境事業センター部	18,019.25 (L)	17,839.06 (L)	2021年度実績から1%削減	2022年度実績から1%削減	
			濱田製作所事業部			4,477.73 (L)
水	上水使用量削減	生活用水が主体であり、節水を遂行していく。				
製品・サービス	受託廃棄物の再資源化の向上	環境事業センター部	100 (%)	100 (%)	100 (%)	100 (%)
課題とチャンス	クレームゼロ	環境事業センター部	0 (件)	0 (件)	0 (件)	0 (件)
		濱田事業部	0 (件)	0 (件)	0 (件)	0 (件)
	地域貢献活動	全社	1 (回)	1 (回)	1 (回)	1 (回)

収集運搬運行計画表

○収集運搬車両 2台【4t車・10t車】【環境事業センター一部】

収集運搬には主に4t車を使用している。

排出される廃棄物量が多い場合は10t車にて収集する場合もある。

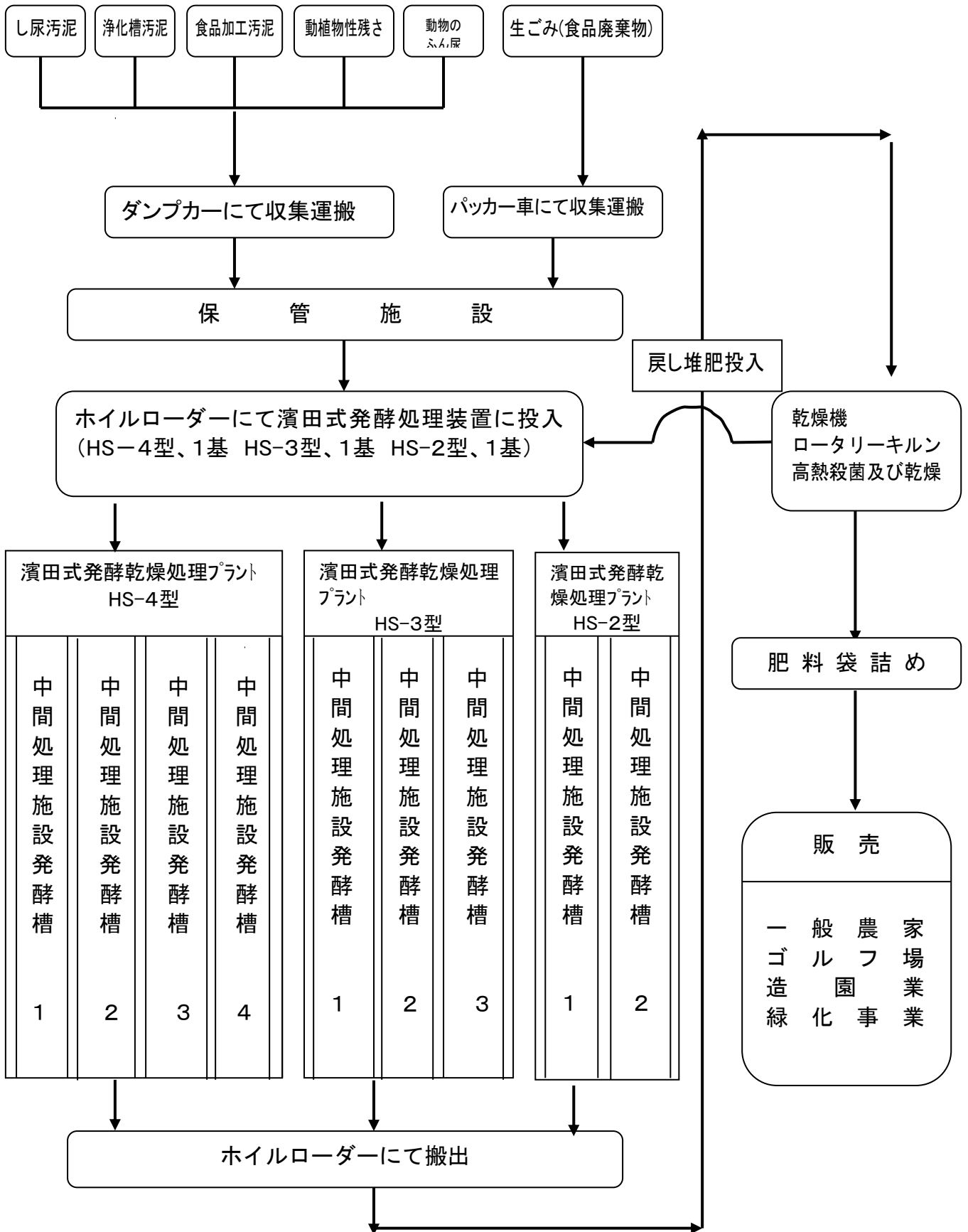
時 間	収集回数		
	3回	4回	5回
8:00	8:30~10:00	8:30~10:00	8:45~9:15
9:00			9:30~10:00
10:00	10:30~12:00	10:30~12:00	10:30~12:00
11:00			
12:00	休憩時間	休憩時間	休憩時間
13:00	13:00~14:30	13:00~14:30	13:00~14:30
14:00			
15:00	車両の清掃	15:00~16:30	15:00~16:30
16:00	工場内作業		
17:00		車両の清掃	車両の清掃

廃棄物受託量

年月	産業廃棄物(kg)	一般廃棄物(kg)	合計(kg)	再資源化(kg)
2020.6	684,780	277,201	961,981	961,981
2020.7	688,570	279,568	968,138	968,138
2020.8	572,430	259,604	832,034	832,034
2020.9	734,410	265,852	1,000,262	1,000,262
2020.10	667,510	229,777	897,287	897,287
2020.11	729,730	207,967	937,697	937,697
2020.12	670,600	294,395	964,995	964,995
2021.1	692,970	209,234	902,204	902,204
2021.2	720,960	218,941	939,901	939,901
2021.3	810,820	264,829	1,075,649	1,075,649
2021.4	747,210	232,468	979,678	979,678
2021.5	755,660	224,911	980,571	980,571
合計(kg)	8,475,650	2,964,747	11,440,397	11,440,397

受託した廃棄物はすべて再資源化しております。

搬入される廃棄物の処理工程図



緊急事態の想定結果及びその対応策			代表者	環境管理 責任者	作成者
想定事項	想定内容・想定結果	予防策	発生時の対応策		
火災	○処理場や工場の漏電やホーム タンクから漏れた燃料などの 引火による火災が想定される	・契約している協会での漏電定期 点検にて事前に対応 ・消火器の設置及び消防点検	・ただちに消防署へ通報する。 ・社員全員の安全確認 ・消火器による初期消火並びに		
	○処理場や工場で火災が発生した 場合は、近隣の住宅棟への類焼 も想定される。	(専門業者による定期点検) ・所定の場所のみでの喫煙	上司・代表への報告 ・危険な場所からの避難 ・二次災害の防止		
	○近辺の山林火災なども想定 される。				
	○通勤時の車両事故が想定 される。(物損・人身)	・車両管理表にて日々車両点検 する。	・ケガ人がいないかの安全確認 をし、いた場合応急処置をする。		
	○勤務時間内の車両事故が想定 される。 【場内作業時・収集運搬時・ 営業時】	・安全運転管理者による学習会 を行い注意がけをする。 ・早めのタイヤ交換をする。	・迅速な通報 ・二次災害防止のための移動 (車・人)をする。 ・上司及び代表への報告		
	○収集運搬中の廃棄物の飛散・ 漏洩が想定される。 (車両事故や車両の不備による 漏洩)	・日々の車両点検をし、車両には ほうき、ちりとり、油膜シートの 飛散防止セットを載せておく。 ・常に安全運転を心がける。	・収集運搬中の場合は、通行の 妨げにならない場所へ移動する ・飛散物の回収は、拡散している 場合は特に一人で行わず、社員 を呼ぶ。 ・上司及び代表への報告 ・関係各署への連絡・報告		
人為的ミスによる 事故・災害	○処理場や工場での作業における 操作ミスでの人的事故が想定さ れる。 (荷崩れ、機械の巻き込み)	・朝礼等での顔合わせで、お互い の体調をチェックしあう。 ・余裕のある作業を心がける。	・事故が起きた際は、ケガ人が いないかの確認をする。 (ケガ人がいた場合、安全確保 救急車を呼ぶ) ・上司及び代表への報告		
自然災害	○地震 ○台風 ○雪害 が想定される。	・天候の変化については天気予 報やニュースにより情報を得る。 ・台風については早めの予防と して土のうを積むことや完全に 戸締りをする等の対策をする。 ・倉庫に物を入れる際、崩れたり しないよう積みすぎたりしない。	・社員全員の安全確保を第一と する。		

環境上の緊急事態の想定訓練

代表者	環境管理 責任者	作成者
濱田	花立	松尾

訓練実施日	令和2年9月10日(木)		
訓練参加者	12名(センター部 5名、営業・総合管理部 7名)		
訓練内容	緊急事態の想定事項の「火災」より、大型乾燥機(ローリーキル)で肥料乾燥中にバーナーが故障し、出火したことを想定 初期消火の訓練		
緊急事態の想定内容の赤字を今回訓練した。			
緊急事態 想定事項	想定内容・想定結果	予防策	発生時の対応策
火災	○処理場や工場の漏電やホーム タンクから漏れた燃料などの 引火による火災が想定される	・契約している協会での漏電定期 点検にて事前に対応 ・消火器の設置及び消防点検 (専門業者による定期点検)	・ただちに消防署へ通報する。 ・社員全員の安全確認 ・消火器による初期消火並びに 上司・代表への報告
	○処理場や工場で火災が発生した 場合は、近隣の住宅棟への類焼 も想定される。	・所定の場所のみでの喫煙	・危険な場所からの避難 ・二次災害の防止
	○近辺の山林火災なども想定 される。		
<p>訓練 ①第一発見者が大声を上げ、駆け付けた社員が初期消火を行う。 →実際消火器を使用し、使い方確認。</p> <p>②消火器の配置場所を確認 →休憩室にある図面を見て、台数も把握した。</p> <p>③出火原因となりやすい場所について確認する。 →大型乾燥機のまわりを見る。ほこりがかぶりやすい電源まわりの 確認。漏電の可能性などについて話し合った。</p>			

環境目標「受託した廃棄物の再資源化」に基づく講習

○産業廃棄物基礎講習会【令和2年9月25日】



環境目標「受託した廃棄物の再資源化」に基づく講習

○フォークリフト安全講習会【令和3年3月3日】



環境活動 地域とのコミュニケーション（取組）【ごみ拾い】

事業場への進入道路（距離約2km）のごみ拾いと、ガードレール洗浄、側溝掃除を行いました。

実施日 令和3年3月24日（水）

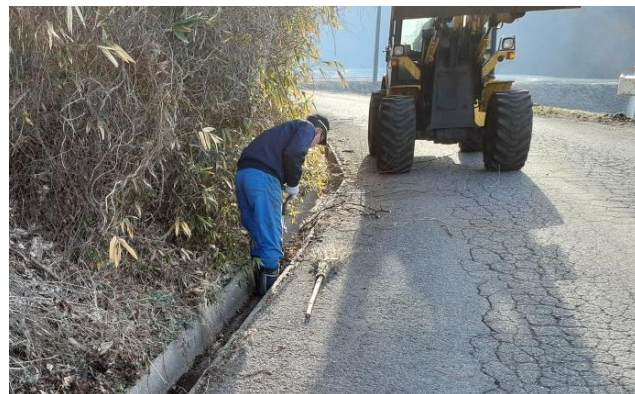
社員11名で作業



ガードレール洗浄



側溝掃除



環境活動 地域とのコミュニケーション【りんごまつり手伝い】

地域の「りんごまつり & 収穫祭」に社員4名が参加し、テント設営や商品の陳列などを地域のみなさんと一緒に活動しました。

活動日：令和2年11月29日（日）



法令の遵守

法規遵守チェック表で環境管理責任者がチェックした結果、違反はありません。
廃棄物処理法の違反について関係機関からの指摘・訴訟はありません。

外部からの苦情受付

(臭気・騒音等の苦情)

廃棄物を運搬中の走行に関する苦情（スピードの出しすぎ等）が考えられますが、苦情やクレームは受付けておりません。

クレーム・苦情等受付簿を作成し、苦情等が発生した場合記入するように管理しています。

代表者による全体の取組状況の評価及び改善に向けて

項目	評価	改善に向けて
環境目標	目標が達成できなかった項目については、受注の増加により生産に力を入れたことにより使用量が多くなったためである。 理由が明確になっている。	近年は機械設備においてフォークリフトをバッテリー式に切り替え、環境にやさしく、燃料の使用増加を抑えるようにしている。今後も継続していく。
環境活動計画	社員にエコアクションへの意識が定着していると感じるが、報告書の期限遵守や記入内容、取組意欲などで個々に差が感じられた。	訓練や勉強会などの機会を設け、意識を高めて知識の差を縮めていくようにする。
環境方針	地域及び住民とのコミュニケーションを図ることを新しく改定した。 地域の方からのイベントの手伝いに参加できた。	コロナ禍の中での制限はあるが、協力できる活動については感染防止に留意し活動していく。
その他		
まとめ	<p>新入社員が少しずつ増えており、新入社員への安全教育や勉強の場を増やすことにより他の社員へも刺激となって、長年の課題である人材育成に着実に繋がっていると評価します。</p> <p>今後もしっかりと取り組むなかで安全作業にあたるよう指導していきます。</p>	

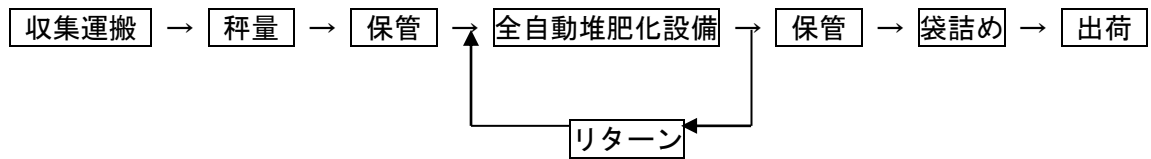
令和 3年 9月 1日

株式会社 岩手環境事業センター
代表取締役社長 濱田 博

組織の概要

事業所名		株式会社 岩手環境事業センター					
代表者名		濱田 博					
所在地		〒024-0042 岩手県北上市黒岩4地割75-35					
環境管理責任者		花立 好一					
エコアクション21担当者		花立 好一					
連絡先		電話	0197-66-3171	ファックス	0197-66-5192		
		E-mail	hamada1986@honey.ocn.ne.jp				
		URL					
事業内容		○産業廃棄物処分業・収集運搬業 ○一般廃棄物処分業・収集運搬業 ○各種設備機器の清掃・保守・管理 ○有機肥料製造販売 ○農作業請負 ○農資材販売 ○飼料米買取 ○主食米買取					
事業の規模		単位	29年度 (29.6~30.5)	30年度 (30.6~31.5)	R1年度 (R1.6~R2.5)	R1年度 (R1.6~R2.5)	
	売上	千円	425,168	439,374	348,565	365,066	
	収集運搬量 産廃	t	83	74	38	6	
	収集運搬量 一廃	t	1,927	2,052	2,070	2,019	
	処分量	t	11,114	11,025	11,635	11,440	
	従業員	人	18	18	20	22	
	敷地面積	m ²	17,820				
法人設立年月日		昭和61年9月			資本金		5百万円
許可の内容	許可名/許可番号	年月日		事業計画・事業の範囲(事業区分、廃棄物の種類)			
	産業廃棄物処分業 00322010463	許可	平成30年10月2日		中間処理(高速堆肥化処理):汚泥(有機性汚泥に限る。)木くず、動物の糞尿(これらのうち特別管理産業廃棄物であるものを除く)		
		有効	平成35年10月1日				
	産業廃棄物収集運搬業 00302010463	許可	平成30年10月2日		汚泥、動物のふん尿(特別産業廃棄物であるものを除く)		
		有効	平成35年10月1日				
	一般廃棄物処理業 北上市 第516号	許可	令和2年7月4日		一般廃棄物処分業:し尿汚泥・厨芥類・草		
		有効	令和4年7月3日				
	一般廃棄物処理業 北上市 第515号	許可	令和2年7月4日		一般廃棄物の収集運搬業:し尿汚泥		
有効		令和4年7月3日					
再生利用事業登録 農林水産省・環境省 3-2-3	許可	平成29年12月11日		肥料化事業			
	有効	平成34年9月30日					
基準適合産業廃棄物処理業者 岩手県産廃処理業者育成センター 第2021-024号	許可	令和3年6月25日		収集運搬、中間処理			
	有効	令和6年6月24日					
設備	設備名	能力・産廃の種類	台数	設備名	能力・産廃の種類	台数	
	堆肥化施設	92t/日	2	一般貨物自動車		9	
	廃棄物保管施設	36m ² (36m ³)	1	フォークリフト		4	
	廃棄物保管施設	95.5m ² (95.5m ³)	1	ホイールローダー		6	
	製品保管場所	130m ² 、30m ² 計(536m ³)	1 1				

処理方法・処理工程



廃棄物 処理料 金	処理物	標準価格	単位	受入基準・処理方法
	有機性汚泥	—		汚泥は有機性汚泥に限る。(堆肥化) 金額につきましては御見積致します。
	食品加工残さ			
	木くず			
	動物のふん尿			
	動植物性残さ			
	廃棄物の処理料金については、電話0197-66-3171にお問い合わせ下さい。 御見積り致します。			

受託した産業廃棄物の処理量

令和2年度

処理方法等	廃棄物等種類	処分方法等	処理量 (t)	
収集運搬	有機性汚泥		6	
収集運搬量合計			6	
中間処理	有機性汚泥	全自動堆肥化設備で発酵堆肥化	8,476	
	食品加工残さ	全自動堆肥化設備で発酵堆肥化		
	動植物性残さ	全自動堆肥化設備で発酵堆肥化		
	動物のふん尿	全自動堆肥化設備で発酵堆肥化		
うち再資源化等	有機性汚泥	全自動堆肥化設備で発酵堆肥化	8,476	
	食品加工汚泥	全自動堆肥化設備で発酵堆肥化		
	動植物性残さ	全自動堆肥化設備で発酵堆肥化		
	動物のふん尿	全自動堆肥化設備で発酵堆肥化		
	再資源化等量小計			
中間処理合計			8,476	
最終処分				
最終処分量合計				
中間処理 後の産業 廃棄物	最終処分			
	再資源化	有機性汚泥	全自動堆肥化設備で発酵堆肥化	8,476
		食品加工汚泥	全自動堆肥化設備で発酵堆肥化	
		動植物性残さ	全自動堆肥化設備で発酵堆肥化	
動物のふん尿		全自動堆肥化設備で発酵堆肥化		
中間処理後処分量合計			8,476	